

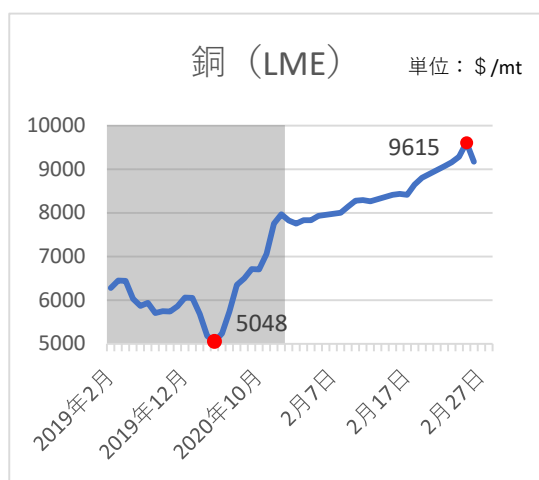
非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



- ・ 世界経済の回復期待や供給懸念などを受けて続伸し、1 か月間で \$1,300 上昇
- ・ 2月25日は2011年8月以来の高値となる \$9,615

(2019年2月～2021年1月の値は月平均)

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSG)の2月22日発表によると、2020年1～11月の世界の銅需給実績は以下のとおりで、需給バランスは58.9万tの供給不足だった。

<2020年1～11月の世界の銅需給実績表>

単位:千トン

	2020年1～11月 実績	2019年1～11月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	18,665	18,691	-0.1%	20,223
地金生産	22,392	21,986	+1.8%	24,434
地金消費	22,981	22,413	+2.5%	24,486
需給バランス	-589	-427		-52

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～11月 実績	2019年1～11月 実績	増減率
鉱石生産	1,567	1,525	+2.7%
地金生産	9,252	8,945	+3.4%
地金消費	13,307	11,651	+14.2%

(出典) 国際銅研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

2月1日	2月4日	2月9日	2月15日	2月17日	2月24日
860	870	890	920	940	1,020

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2021年1月分=令和3年1月分)

	2021年1月	2020年12月比	2020年1月比
生産	138,594 t	+2.9%	+1.1%
出荷	130,002 t	+4.5%	+7.7%
在庫	120,212 t	+8.9%	+4.9%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は8か月連続の増加となった。出荷は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は7か月連続の増加。内訳は内販が前月比4.4%増、前年同月比6.4%増の7.3万tで、それぞれ2か月ぶりの増加と19か月ぶりの増加。輸出は前月比4.8%増、前年同月比9.4%増の5.7万tで、それぞれ2か月連続の増加と14か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比3.8%増の4.5万tで16か月ぶりの増加、伸銅品向けは13.5%増の2.5万tで22か月ぶりの増加。在庫は前月比が3か月連続の増加、前年同月比は13か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

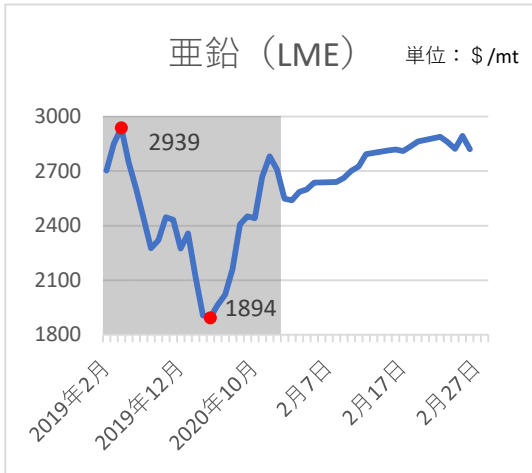
(一社)日本電線工業会によると、2021年1月の銅電線出荷は前年同月2020年1月比6.5%減の5.1万t(推定)と16か月連続で減少した。うち内需は前年同月比6.6%減の5.0万tで12か月連続の減少、輸出は0.5%減の1,100tで2か月連続の減少。内需の部門別では、通信が2か月ぶり、電力が3か月連続、電気機械が5か月連続、自動車は4か月連続の増加、建設・電販が12か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年1月の伸銅品生産は前年同月2020年1月比1.8%増の5.9万t(速報)と26か月ぶりの増加となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比16.8%増で4か月連続の増加。自動車端子向けの黄銅条は6.3%増で3か月連続の増加。コネクタ向けの青銅板条は21.0%増で4か月連続の増加。エアコン向けの銅管は13.9%減で12か月連続の減少となった。

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ \$2,500 台から \$2,800 台に上昇
- ・ 2月25日は2019年5月以来の高値となる \$2,895

(2019年2月～2021年1月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会 (ILZSG) の2月25日発表によると、2020年1～12月の世界の亜鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは53.3万tの供給余剰だった。

<2020年1～12月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～12月 実績	2019年1～12月 実績	増減率	2020年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	12,136	12,892	-5.9%	12,329
地金生産	13,641	13,480	+1.2%	13,597
地金消費	13,108	13,709	-4.4%	12,977
需給バランス	+533	-229		+620

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～12月 実績	2019年1～12月 実績	増減率
鉱石生産	4,137	4,297	-3.7%
精鉱輸入	1,811	1,503	+20.5%
地金生産	6,342	6,162	+2.9%
地金輸入	512	544	-5.8%
地金消費	6,724	6,638	+1.3%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

2月1日	2月4日	2月10日	2月16日	2月22日
319	328	334	355	358

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年1月分=令和3年1月分)

	2021年1月	2020年12月比	2020年1月比
生産	46,143 t	-2.7%	-0.5%
出荷	45,852 t	-2.4%	+13.7%
在庫	68,569 t	+3.2%	-10.0%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が6か月ぶりの減少、前年同月比は2か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は4か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

12月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比1.0%減の72.6万tで、15か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年12月の伸銅品生産は前年同月比2.3%減の58,451t(確報値)で、25か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が3.8%増の7,644tで2か月連続の増加。黄銅棒が4.8%減の13,521tで11か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2020年12月分=令和2年12月分)

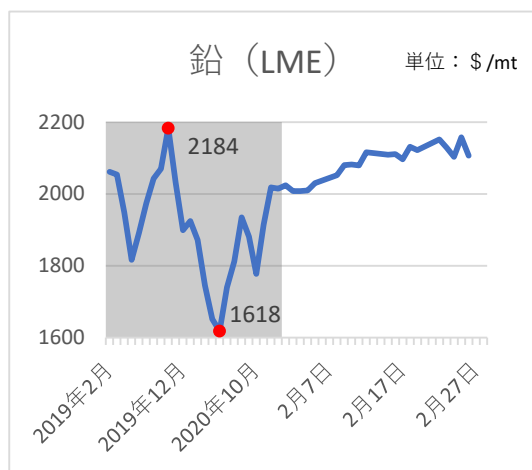
	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
亜鉛めっき鋼板	726千t	+1.3%	-1.0%
黄銅製品	23,887 t	-1.5%	-3.6%
亜鉛ダイカスト	1,165 t	-20.3%	-13.2%
酸化亜鉛(亜鉛華)	3,211 t	-33.2%	-28.3%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ \$2,000 台から \$2,100 台に上昇
- ・ 2月25日は2019年11月以来の高値となる \$2,159

(2019年2月～2021年1月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の2月25日発表によると、2020年1～12月の世界の鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは22.3万tの供給余剰だった。

<2020年1～12月の世界の鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～12月 実績	2019年1～12月 実績	増減率	2020年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	4,482	4,720	-5.0%	4,501
地金生産	11,750	12,187	-3.6%	11,661
地金消費	11,527	12,167	-5.3%	11,385
需給バランス	+223	+20		+276

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1～12月 実績	2019年1～12月 実績	増減率
鉱石生産	1,969	2,005	-1.8%
精鉱輸入	752	937	-19.7%
地金生産	4,966	4,959	+0.1%
地金輸入	32	118	-72.7%
地金消費	4,996	4,978	+0.4%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

2月1日	2月8日	2月15日	2月19日
273	276	282	285

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年1月分=令和3年1月分)

	2021年1月	2020年12月比	2020年1月比
生産	17,018 t	-4.2%	-3.4%
出荷	18,900 t	+9.4%	+2.7%
在庫	17,565 t	-1.7%	-0.6%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比、前年同月比ともに2か月ぶりの減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月連続の減少となった。

3. 需要部門動向

12月の自動車生産台数は前年同月比3.6%増の75.2万台で、2か月ぶりの増加となった。また、二輪車生産台数は前年同月比3.9%減の4.9万台で、11か月連続の減少となった。

(一社)電池工業会によると、12月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で253.0万個(前年同月比4.0%増)と2か月ぶりに増加、自動車用以外の鉛蓄電池も43.6万個(4.1%増)と3か月連続で増加した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は296.6万個(4.0%増)となった。

鉛関連製品生産統計(2020年12月分=令和2年12月分)

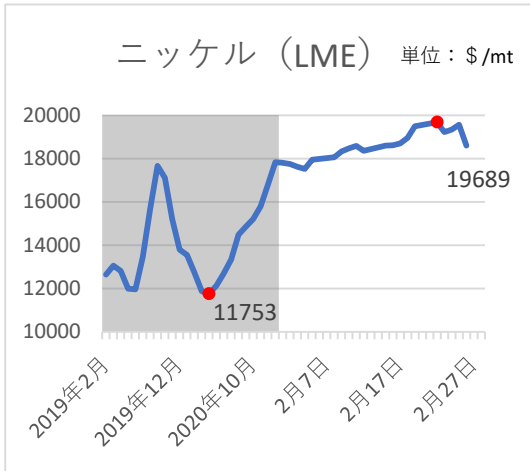
	2020年12月	2020年11月比	2019年12月比
自動車	751,629台	-3.9%	+3.6%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	16,906 t	-1.5%	+0.5%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

ニッケル

【海外】

1. 価格推移



- ・ \$17,000 台から \$19,000 台に上昇
- ・ 2月22日は2014年9月以来の高値となる \$19,689

(2019年2月～2021年1月の値は月平均)

2. 需給動向

国際ニッケル研究会 (INSG) の 2 月 22 日発表によると、2020 年 1～12 月の世界のニッケル需給実績は以下のとおりで、需給バランスは 12.3 万tの供給余剰だった。

<2020年1～12月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～12月 実績	2019年1～12月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	2,390	2,528	-5.4%	2,352
地金生産	2,497	2,372	+5.3%	2,436
地金消費	2,374	2,405	-1.3%	2,318
需給バランス	+123	-32		+117

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1～12月 実績	2019年1～12月 実績	増減率
鉱石生産	104	105	-0.6%
地金生産	733	806	-9.1%
地金消費	1,410	1,326	+6.3%

(出典) 国際ニッケル研究会

3. 供給障害

- ◆ 住友商事、アンバトビー・ニッケルプロジェクトの操業を 3 月に再開予定(マダガスカル)

住友商事は 2 月 4 日、マダガスカルで手掛けるニッケル鉱山開発事業のアンバトビー・ニッケルプロジェクトについて、3 月を目途に操業再開する見込みであることを発表した。本プロジェクトは COVID-19 感染拡大の影響によって 2020 年 3 月末から操業を停止しており、2020 年 4~6 月期に約 550 億円、10~12 月期に約 300 億円の減損損失を計上していた。

同社は 2005 年から本プロジェクトに参画。2020 年 9 月には共同出資している資源開発会社シェリット・インターナショナル(加)の財務悪化に伴って持分の一部を取得し、54.17%の持分比率になっている。2019 年度は 3.6 万tのニッケルを生産した。

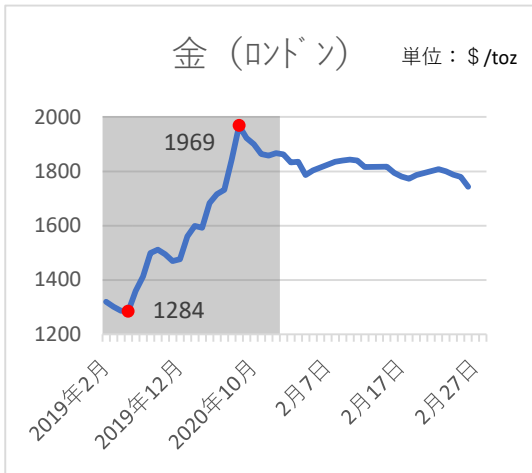
【国内】

メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2021 年 1 月分=令和 3 年 1 月分)

生産は 2020 年 12 月比 14.8%増、2020 年 1 月比 0.6%減の 4,630tで、それぞれ 2 か月連続の増加と 5 か月連続の減少となった。

金

【海外】 価格推移



- ・ 世界経済の回復期待やドル高を受けて下落、\$1,800 台から\$1,700 に推移

(2019年2月～2021年1月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日	2月8日	2月9日	2月10日
6,256	6,300	6,240	6,215	6,122	6,178	6,235	6,212
2月12日	2月15日	2月16日	2月17日	2月18日	2月19日	2月22日	2月24日
6,172	6,185	6,210	6,138	6,080	6,015	6,095	6,163
2月25日	2月26日						
6,173	6,070						

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2021年1月分=令和3年1月分)

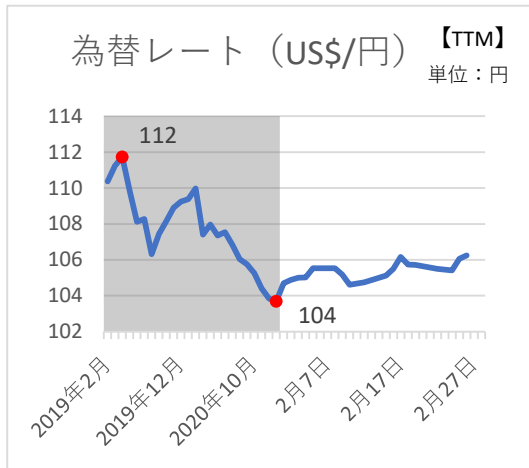
	2021年1月	2020年12月比	2020年1月比
生産	8,324kg	+1.7%	-10.5%
出荷	8,662kg	+6.8%	-22.7%
在庫	3,632kg	-8.5%	-0.3%

(出典)経済産業省生産動態統計調査(生産と出荷の増減比については、以前の実績との間で不連続を生じたため、連続性を確保したもので計算)

生産は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は4か月連続の減少となった。出荷は前月比が4か月ぶりの増加、前年同月比は4か月連続の減少となった。在庫は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は10か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



(2019年2月～2021年1月の値は月平均)

- ・ 米長期金利の上昇を受けてドル買いが進行、\$1=104円台から106円台に推移
- ・ 2月26日は2020年9月以来のドル高となる106.25円